



〒227-0066青葉区あかね台1-28-20

担当： 櫻井 重 E-MAIL [sakurai@jpwtrip.com](mailto:sakurai@jpwtrip.com)

■申込方法：上記申込先へ、以下の情報をファックスまたはメールでお送りください。

氏名

性別 男 女 (○印をお付け下さい)

年齢 歳 (任意保険加入ご希望の方のみご記入お願い致します。)

住所 〒 -

電話 : eメールアドレス : @

※東京都 在住・在学・在勤の方で補助を受ける方は、運転免許証、健康保険証、住民票、身分証明書、学生証等いずれかのコピーが必要です。

## 古賀久恵@遠野より 「ふれあいステーション・あい」(宮古市)の協力

10月8日岩手県山田町の仮設住宅集会所で行った小さなイベントの報告です。

「100個のハーモニカを被災地の子供たちに配りたい。配布先を紹介してほしい」という連絡が入りました。この時点での問題点は3つ。物資が「ハーモニカ」であること、100個という数が中途半端であること、実施までの時間が3日しかないこと。しかし話を聞いていくと集めた寄付で購入したハーモニカを100個抱えてアメリカ・ロサンゼルスから俳優(日本人)さんがわざわざやってくるというではありませんか。駄目元で急遽ご協力いただけそうな団体さん数か所に声をかけました。その中でご協力いただけたのが市民協会員(岩手の会員さんは少ない)である「ふれあいステーション・あい」(宮古市)の理事長・佐々木りほ子さんでした。

佐々木さんと佐々木さんのスタッフの方々は時間がない中、イベントにまで仕上げてくださいました。当日はぶっつけ本番。集会所に到着するとすでに待っている人もいて打ち合わせをする間もなくイベントはスタート。

俳優さんの自己紹介から始まり、ハーモニカは感情を簡単に表現できるというパフォーマンス。暗い気持ちの時の音、「好きな女の子に声をかけられた時」うれしい気持ちを高音で表現などなど。俳優さんのルックスと演技力が手伝って集会所は数分後には楽しい雰囲気。その後、参加者が音を出し始めました。高齢者の方は子供の頃に吹いたことがあるので簡単に音が出せます。子供たちは音階とは関係なく思い思いに音を出して、躍りだす子供も。ハーモニカの音を聞きつけて後から参加してくれた方も何人もいました。

最後には「ラーメンやさんの音」(チャルメーエラ、チャルメーエラ)と全員で合奏、大盛り上がりの1時間でした。

「ハーモニカもう1個もらっていい？家でとうちゃんと会話がないからさあ。ハーモニカでも吹いて明るくするべ」という高齢者女性もいらっやいました。「ハーモニカ」も迷惑にはならない支援物資だったことに一同ほっとし、100個はあつという間に貰われていきました。

ロサンゼルスからきた若い俳優さんと東京からきたカメラマンさん、そのふたりを岩手に繋いだ慶應の大学院生。3人の若者はイベント終了後には「もう帰っちゃうの？」「100年くらいここにいてよ」と子どもに大人気。中高年の女性たちも「イケメンねえ」と楽しそう。高齢者の男性も昔話をはじめます。こちら支援地に来てから感じていることのひとつに「現場合わせ」という感覚があります。綿密な計画やチラシを配っていても必ずしも当日の成功にはつながらないということです。

佐々木さんのような方と協働できると参加者の方、イベントの演者(ボランティア)、企画側(ボランティア受け入れ団体など)、時には行政、それぞれの人々の満足度が高くなるのを感じた小さなイベントでした。翌日、佐々木さんから心温まるメールをいただきました。引用させていただきます。

「今日も秋晴れ昨日の素敵な出会いをいただき有難うございます。地元の笑顔に私も又々励まされ」  
県外からの外人部隊ですが地元の方との懸け橋になるよう活動をしていきたいと思ひます。(古賀久恵)

■岩手遠野事務局

〒028-0515 岩手県遠野市東館町6-16 産業振興会館  
遠野・山・里・暮らしネットワーク内090-6134-5959

**お知らせ**

**介護なんでも文化祭 10月23日（日）開催**

**於：上智大学四谷キャンパス**

**体育館で避難所・福祉避難所を再現、車座トークも**

**恒例のはてなミュージアムは12号館5階**

**（宅老所を全国に広める会の出展はこの階の⑨）**

介護なんでも文化祭は、「市民の手で介護の文化を創ろう！」をスローガンに介護の先輩達と一般の市民・NPO 等市民団体、企業・行政など様々な人達が知恵と情報を持ち寄り、交流する提案社会型の手作りイベント。今年で第7回を迎えます。

介護に関わる様々な立場からの「情報」が集まる、市民誰もが主役の文化祭です。

参加料は500円 プログラム・「介護者の声」冊子 文化祭を継続開催するために入場の際にご協力をお願いします。

**講演「地域包括ケア」（厚労省老健局 川又振興課長）**

**12号館2階 201号室**

「第7回市民発！介護なんでも文化祭」のチラシ、セミナー・フォーラムのご案内、会場案内図は下記アドレスをご覧ください。

<http://www.seniornet.ne.jp/2011/10/post-113.html>

**第7回パラソル喫茶・仮設住宅支援活動募集！！**

**～ ボランティア体験隊～**

**出発日：11月5日から6日（1泊2日 4食付）**

募集人員：25名（先着順）

会費：おとな1名様 13,000円

支援：宮城県東松島氏（ひびき工業団地内仮設住宅）

詳細はこちらから <http://www.seniornet.ne.jp/2011/10/1156.html>

お問い合わせ：NPO法人ふれあいネットまつど電話047-346-2052

**<子どものために、今、できることは**

**～震災を通して考える、子どもの今、子どもの未来～>**

東日本大震災から半年が経過し、学校も再開し、被災した子どもたちのメッセージも取り上げられつつありますが、

子どもを取り巻く環境はまだまだ厳しいものがあります。また、「子どものため」の活動を展開している団体は多数ありますが、活動が多岐にわたることもあり、連携・ネットワークも十分ではありません。

そこで以下のことを目的に、「子どもの今、子どもの未来」について深め、次の行動につなげていくための場を設けました。多くの方の参加をお待ちしています。

**【目的】**

- ・被災地で活動している子ども系 NPO による、横の連携・ネットワーク・情報交換を図る
- ・団体のみならず、個人として関わっている方との連携も目指す
- ・単なる「賛成／反対」の場ではなく、建設的な対話・意見交換・熟議によって、子どもの”今”と”未来”について考える

【日時】10月23日(日) 9:30～13:00(受付 9:15～)

※終了後に昼食を兼ねた懇親会(実

費)も予定

【会場】キッズな大森(子ども家庭支援センター大森/大田区大森北四丁目16番5号)

※JR 京浜東北線「大森駅」から徒歩約8分

<http://www.city.ota.tokyo.jp/shisetsu/kosodate/kizzunaomori/index.html>

【主な話題提供者(順不同)】

\* 聖心女子大学准教授・永田佳之さん

<http://www.u-sacred-heart.ac.jp/nagata/>

<http://www.u-sacred-heart.ac.jp/interview/ynagata.html>

\* キッズドア・渡辺由美子さん

<http://kidsdoor-fukko.net/>

<http://www.kidsdoor.net/kids/index.html>

\* 寺子屋方丈舎・江川和弥さん

<http://www6.ocn.ne.jp/~houjyou/>

\* アトピッコ地球の子ネットワーク・赤城智美さん

<http://www.atopicco.org/>

\* こども福祉研究所/東日本大震災子ども支援ネットワーク・谷川由起子さん

<http://www.kodomofukushi.com/>

<http://shinsai-kodomoshien.net/?cat=35>

【タイムテーブル】

9:15～9:30 受付

9:30～10:00 1部＝永田さんから話題提供

10:00～11:15 2部＝福島関係を中心に意見交換

11:15～13:00 3部＝被災地全般について意見交換

13:00～ 自由解散／周辺で昼食をとりながら自由に意見交換

【参加費】1000円(資料代・会場代として)

【留意点/お願い】・各団体のパンフレットなどを配布するコーナーを設置しますので、

当日、60部お持ちください(残部は各自お持ち帰りください)

【申し込み】 ※定員＝45名下記の申込フォームに必要事項を入力してください。

<http://bit.ly/nba107>

※申込フォームに入力された項目のうち、「3:住所 4:電話番号 5:E-mail」以外は、当日、参加者全員に配布いたします。 非公表を希望される項目がありましたら、入力フォームにその旨ご記入ください。

【申込期限】

10月21日(金)午後5時

【問合せ】

新しい公共を創る市民キャビネット・子ども部会／日本子ども NPO センター:林

dhayashi1976@gmail.com

090-1991-7458

.....

## 東日本大震災支援金

皆様から頂きました支援金は下記のように活用させていただいております。

《団体への支援金》

市民キャビネット災害支援部会,宮城県宅老所連絡会,よしかわたすけあい,あすなろの会,ウイラブ北茨城,東日本大震災被災地NPO支援全国プロジェクト,おひさまくらぶ,あかねグループ,WAC東北ネットワークセンター,杜の伝言板ゆるる,WACまごころサービスみやぎ,すみちゃんの家,ひなたぼっこ,特定非営利活動法人あかねグループ,NPO事業サポートセンター,せんだい杜の子ども劇場,食事サービスふたばの会,NPO法人 介護サポートネットワーク アラジン,グループゆう,介護の社会化を進める 一万人市民委員会宮城県民の会,ぼけっと・はうす,けやきグループ、せんだい・みやぎNPOセンター,水・環境ネット東北,子どもの放課後支援をすすめる会,訪問ボランティアナースの会キャンナス,宮城移動支援フォーラム,

### 《新規》

ささえ愛山元,ふれあいステーション・あい,伊藤寿朗,ふくしまNPOネットワークセンター,おひさまくらぶ,ゆうあんどあい,ほっとあい,ひだまり(ウオーク),菜の花ふれあいの会,福島まごころセンター、まごころケア塩釜、まごころケアサービス二本松、まごころケアサービス福島センターまごころケア国見、まごころケア千葉、まごころケア横芝、まごころケアひまわり、

**団体への支援金合計9,370,000(10月11日現在)**

### 《事業費、管理費》(10月11日現在)

パラソル喫茶(パラソル、椅子購入費、燃料費他) 485,680円

寄付パソコン送料 110,934円

旅費・交通費 1,709,276円

現地車保険料 285,380円

仙台事務所駐車場・家賃他 574,800円

物資支援(味噌、醤油) 60,286円

ボランティア保険料 378,626円

総計12,974,982 残金 7,573,291円

## 2千万円を突破!

## 総合計20,548,276円に!!

### 《新規分》

たすけあい組織鼓楼閣1,000,000

### ・物資のご寄付

稲垣伸子さんより鈴木末吉商店《東京四谷》の文具5万円相当をご寄付いただきました。

### 《既存分》

NPO法人たすけ……9,920円(正式名称ご連絡ください)

日本ケアシステム 278,396(2回目)、ぎふ市民協 50,000、日本ケアシステム協会 1,000,000、福寿かがやき(2回目) 100,000たすけあい大田はせさんず 15,000、佐賀市民活動…… 23,500(正式名称ご連絡ください!!)、法人地域たすけあいの会170,376、生活支援センター ふくしの家 5,000、地域助け合いネットワーク 30,000、エフ・エー 前東氏 50,000、ふれあいネットまつど(8回目) 50,000、たすけあい組織鼓楼(3回目)150,000、たすけあい名古屋 渡部氏 65,000、三本松高等学校同窓生一同 371,519、ひかり(大阪) 40,210、とちぎコミュニティファンド(まごの手)6,000、八幡実 15,000、

たすけあい伊奈 35,000、金内惟行 30,000、市民生活支援センター ふくしの家14,266、ひだまり(2回目) 30,000、宅老ちよだひまわりの会 20,000、ふれあいネットまつど 41,000、りんりん 100,000、藤崎由美子 50,000、漆原富紀子(5月分)5,000、たすけあい佐賀(3月.4月.5月分)150,000、西田京子 100,000、ぬくもいホーム太陽 100,000、佐賀県宅老連東部ブロック 35,000《ふれあいみやぎ、宅老ちよだひまわりの会、共生ステーションはれ、宅老所 せど 5,000、

まごころ 5,000、ブライハウス 5,000、本桜 5,000、神奈川ワーカーズコレクティブ連合会 1,000,000、ワーカーズ くまさん 70,000、大田はせさんず200,000、温井 克子 50,000、ひだまり 30,000、多摩川にこにこ倶楽部デイサービススタッフ一同、10,000高橋イセノ5,000、島田 慎太郎 30,000、古賀久恵 5,000、中継 正恵5,000、情報労連東京福祉センター 391,756、相互扶助の会いしずえ 河合竹乃 50,000、伊藤啓子 50,000、山形わたげの会(2回目)56,950、イワクママチコ 11,000、兼間道子100,000、市民協 50,000、東京環境福祉会議デイサービスわたげ25,305、北九州あいの会 50,000、すけっとファミリー120,000円、芸南たすけあいスタッフ一同28,000、クローバーハウス(呉服町)200,000、NPO 法人たすけ愛・手をつなごう会 39,766、流山ユー・アイネット50,000、たすけあいスプーン 200,000、福間ゆーあいの会 50,000、NPO 法人ふれあい富士 63,000、ハートフル 56,166、うぇりんぐケアセンター宮崎 35,000、地域ケアネットワークゆいまある53,300、ぐるーぷ藤43,000(4回目)、市民福祉ネットワーク三重170,000、多胡光宗・キベテルコ100,000、パーソナルケアサービスみもぎ 392,000、ふれあいネットまつど(6回目)42,415、一万人市民委員会宮城県民の会 300,000、稲葉ゆり子100,000、定永嘉代 50,000、在宅ヘルパーサービス朋70,000、有限会社 ケアサービス研究所30,000、介護者サポートアラジン50,000、お互いさま傾聴の会 35,000、佐賀県宅老所連絡会655,703、ユーアイやちよ 210,778、城下邦芳10,000、中村清子30,000、タカダカオル10,000、加茂秀ニ(加茂寿司)30,000、寺子屋ミニデイサービス50,000、吉田政子(株式会社コモンズ)3回目20,000、中島和昭10,000、キタニ スミコ10,000、前東 ふみ子 50,000、須田 弘子 50,000、田原博100,000、田原英敏100,000円、田原美穂子100,000円、栗田祐輔100,000、赤嶺アヤ子50,000、丹生敏子50,000、加藤ひとみ30,000、美那元薫30,000、古田亜希子30,000、平野幸子30,000、田中里奈30,000円、丁田直美20,000、江藤健20,000、平野健10,000、岩本佳子4,000、高司雄平3,000円、加来由美子3,000、荒巻眞ニ1,000、滝村2,000、椎原朗2,000、鼓楼教室第一期生5,131、平野覚治100,000、ABC 倶楽部(大西啓義)30,000、ふれあいネットまつど(5回目)40,000、小西 伸彦30,000、三上安広50,000、生駒まごころ 80,053、ひだまり10,000、高澤ナミ子100,000、高澤圭介100,000、鈴木幸子10,000、牧野さと子10,000、望月ヒデ10,000、前山央子2,000、村上初江3,000、森本明子3,000、斉藤真澄5,000、村上喜男5,000、グループお互いさま6,363、田中茂子50,000、WAC「輝き」30,000、NPO法人大田はせさんず 230,000、ぬくもり福祉会たんぽぽ149,437、三宅章之12,000、ナカムラユリコ 50,000、小金原くらし支援ネット50,000、マチダサトシ20,000、NPO法人 ぐるーぷ藤51,700(2回目)、西田京子100,000、吉村香代子(瀬戸康夫の香典返しとして)200,000、市民たすけあいネット100,000、ふれあいネットまつど(4回目)83,568、チーム全労済岡山50,000、コミュニティサポートセンター神戸100,000、島貫みち子30,000、ミノダ ユミコ3,000、WAC 清水 オオシマ200,000、ともだち村148,500、山形わたげの会50,000、フクダ アサ5,000、お互いさまネットワーク100,000、あいコスモス100,000、福原 秀一50,000、田中尚輝 100,000、ふじファンド100,000、おひさまくらぶ200,000、奈良 環 30,000、ほっと大東50,000、ケアネット50,000、ファミリーサポーターさわやか50,000、隣の会150,109、瀬戸地域福祉を考える会、まごころ50,000、ふれあいネットまつど(3回目)90,139、田ノ上サトシ・田上真子20,000、桑山和子100,000、NPO法人ネットワーク大府250,000、岡村淳映画上映会一同27,960、愛こーぷ港北50,900、みんなの手90,000、介護サービスさくら207,125、吉田政子(株式会社コモンズ)2回目 32,420、ボランティア杜の家79,389、たすけあいあさひ500,000、ハートアンドハート菊川、10,000、ワタナベ カツミ 30,000、クロキケイコ30,000、ハンズグループたすけあいの会すまいる10,000、山本敦子 10,000、牧野洋子50,000、サポートこもれび30,000、タケバヤシ ヤスコ20,000、生活介護支援 くまちゃん16,150、ふれあい福祉北九州30,000、永田秀雄100,000、襲の会100,000、有限会社ケアさくら50,000、神戸ライフ・ケア協会、500,000、岡村淳映画上映会」27,960、おもいやり介護の会つくしんぼ5,000、クローバーハウス(京都)200,000、ウェーブ50,000、小規模多機能ホームようこそ30,000、ナカタヒサコ50,000、ヒデシマクミコ50,000、カワセクミコ50,000、たすけあい平田50,000、さわやかたすけあい草加50,000、ワーカーズかすがい70,000中野ふくし倶楽部100,000、わたらせライフサービス100,000、曾根清次10,000、たすけあい佐賀315,285、たすけあいの会ふれあいネットまつど50,000(2回目)、菅野忠雄20,000、栃木地域福祉ネットワーク50,000、50,000、中村喜佐子100,000、福寿かがやき100,000、吉田政子(株式会社

コモンズ) 189,000、ぐるーぶ藤240,000、あすなろの会100,000、鈴木睦夫50,000、多摩川にこここ倶楽部50,000、たすけあいスプーン(野田市) 30,000、イトウケイコ 50,000、たすけあい組織鼓楼1,000,000、島津禮子100,000、じゃんけんぽん57,000、たすけあいの会ふれあいネットまつど50,000、いぶりたすけ愛100,000、ギフ福祉ネットワーク東部55,000、自立共生会50,000、医療法人創健会50,000、ちくほう結50,000、水野嘉女100,000、井上謙一20,000、鈴木明与50,000、芸南たすけあい300,000、芸南たすけあい 島本副代表100,000、芸南たすけあい 島本幸子理事100,000、サポートハウス年輪100,000、サポートハウス年輪(スタッフ)95,424、

.....  
市民協 東日本災害支援 支援金口座 送金先 :三井住友銀行 浜松町支店  
(普通)9101171 口座名 特定非営利活動法人 市民福祉団体全国協議会  
.....

## こうれいしゃ死から生へ

### 介護保険共同推進機構顧問弁護士 村田 光男

#### 6 話を聞いて

入所当初、A子は自分の歴史を話したいと思っていた。80年も生きてきたが、たいした歴史ではない、どこにでもある人生だ、とA子は思っている。それでも、全く同じ人生などないはずだ。だから聞いてほしい。どこか、たった一点でも共感してくれたらいい。そう謙虚に思っていた。わずかでも共感してもらえたならば、とりもなおさず、それは自分を認めてくれたことになる。年をとっても、人は自分を認めてほしいと思っている。認めてくれれば安心して生活できる。家族ならばどこかで認め合っているものだが、他人ならそうはいかない。だから、認めてほしい。

でも誰が話を聞いてくれるのだろうか。誰が共感し、自分を認めてくれるのだろうか。入居者は駄目だ。入居者の人格に問題があるというのではないが、入居者は、自分の話を聞いてほしい人ばかりだ。人の話など聞くゆとりはない。しかし、入居者が作る集団の一員になるということは、入居者の誰かに認めてもらえなければ、安心は得られないということだ。聞くゆとりのない入居者に聞いてもらい、共感して、認めてもらう。どうしたら叶うのか。それに、職員にも自分の人となりをわかってほしい。

「(誰も話を聞いてくれそうもない)」とA子は、入所当時はこのようにあきらめていた。

「おはようございます」と職員a。

「おはよう・・・」とA子。

「(そうだ、毎朝会話を交わす職員aならば聞いてくれるかもしれない。)」今度話そうとA子は決意した。自分の話を聞いてくれる人探しにも、決意が必要だった。しかし、そこまでの決意は不要であったことを、数日後にA子は知ることになる。

入所から数日後、A子の部屋を職員aが訪ねてきた。図書室に、A子の個人史ないし個人の文化を紹介する「私の履歴書」という小冊子を置きたいのだという。皆でA子を理解したいのだという。

「私の話を聞いてくれるのですか。」とA子。

「もちろんですとも。ぜひ、これまで生きてこられた歴史とA子さん固有の文化をお話し下さい。」職員aはA子にお願いした。

やがて、A子の小冊子が図書室に備え置かれた。職員全員はそれを読む義務を負わされていた。そして、A子に関心のある入居者も、その小冊子を読んだ。

#### 7 老人ホームという職場

「A子さん、おはようございます」職員eが声をかける。

「おはよう・・・」

「おかわりありませんか」

「はい・・・」

「aさんは・・・」とまどろむA子は尋ねた。

「お辞めになりました」と職員e。

入居者に挨拶もなかった。何か事情があったのだろう。

A子には、自分の話を聞いてくれた職員aがどういう経歴の人か知らされていなかった。職員aに尋ねることもしなかった。相手のことも聞かずに、自分の話を聞いてほしいと願っていたA子。そのことにA子は気づいていなかった。ひたすら自分のことを理解してほしい。

「(おはようございます)」

「(おかわりありませんか)」

職員aの声掛けが思い起こされた。

あの職員aにとって、私は何だったのか。

80年生きてきた。夫は15年前に亡くなった。子どもはいない。子どもがいない分、預金がたまった。2人で旅行をした。2人でゴルフもした。それはそれで楽しかった。だが、夫は一足先に逝ってしまった。早く死なれてはとても困る。ひとりぼっちになった。夫と仲がよかった分だけ、友達が限られてしまっていた。マイホームも建てたが、ひとりでは広すぎる。数少ない友達がたまに来てくれても、夫と過ごしたほどには充実感が持てなかった。充実感を求めて、A子はデパートを歩きまわった。もちろん貯まったお金をふんだんに使った。そのデパートの店員でA子を知らない人はいない、というほどまで、A子は衝動買いをした。

やがてA子は、その浪費癖を心配した友人らの計らいで、今の施設に入所した。半年を過ぎると、友人らは訪ねて来なくなった。心配してくれたことはありがたいと、A子は素直に思ったが、友人らが訪ねて来なくなるとは思わなかった。

「(私はあの方たちにとって、なくてはならない人ではなかったんだわ。)」A子は気がついた。ベッドの中で、職員eの声が遠くに消えていく…。A子は再び眠った。

「はるちゃんっ…もっとはよう登ってこいよ」

「たけおははやすぎる…」

「弱虫だな、はるちゃんは…」

「弱虫じゃない。今、行くって…」

…

「きれいだなあ」

「何が」

「岩手山だ」

「なんだあ。岩手山か…」

「あたりめーだ。岩手山だ…」

「わたし、岩手山よりたけおが好きだ…」

「…俺は岩手山と同じくれえだ…はるちゃんが好きだ…」

野山を駆け巡り、桜の木に登った7歳の日々が脳裏をかすめていた。初恋だと思った。

「A子さん、おはようございます」遠くの方からまた職員eの声が聞こえた。

たけおの姿が、突然消えた。

「夢?…」A子がつぶやいた。

たけおを見たのは何十年ぶりだろう。結婚して、それから私はたけおを忘れてしまった。いろんな私がいる。夫も、たけおも、私をわかってくれる人だった。夫には悪いが、結婚する前の、子どもの頃の話だ。たけおの夢は、夫の夢を見た後に見た夢だ。

「はるちゃん、手をつなぎましょう」男先生が言った。

「はい」はるちゃんが答えた。

5歳のはるちゃんは、今でいう保育園の男先生と手をつないだ。戦後まもなくの頃の話だ。農家の生まれのはるちゃんは、農繁期になると、近隣の子どもたちを集め世話をしてくれている小さな施設に昼間だけ預けられた。その日は、この地区の裏山に皆で出かけた。大人は、男先生を女先生の2人だけ。2人とも若い先生だった。子どもは15人ほどいた。はるちゃんは男先生が大好きだった。男先生の大きな手の中にはるちゃんの手が隠れていた。

「ごはんの用意ができています」と、また職員eが言った。優しい声だった。A子は、職員eの歴史も何ひとつ知らない。

自分のことを話すばかりで、職員aのことは何も聞かなかった。職員aはどんな思いで勤務していたのか。生活はなりたっていたのか。家族の問題を抱えていたのではないのか。A子は自分の身勝手に気付きつつあった。

「(そうだ。私は、自分のことを理解し認めてほしいとばかり思っていたが、職員だけでなく、入居者のことを全く理解し認めることをしてこなかった。何と云うことか。これでは心は通うはずもない。)」A子はつくづく思った。職員aの退職がきっかけとなった。A子は、よくやってくれていた職員aにすまないことをしたと思った。涙が出た。



## グランマリバーサイド立川 高齢者賃貸住宅入居者募集中です！！

詳細はこちらから……………

<http://www.granma.jp/riverside-t/index.html>

- ★介護サービスさくら ★おもいやり支援センターくまの ★グリーンコープ ★
- ★たすけあい佐賀 ★全労済 ★宅老所を全国に広める会 ★
- ★一般社団法人 市民事業支援機構★